

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
航空力学 I	講義		1	1	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	小倉 茂雄
			20	20	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	飛行機が飛ぶ仕組み、空を自由に飛ぶ仕組み、ジェット・エンジンの仕組みについて理解する
使用教科書・副教材等	空を飛ぶはなし
教員実務経験	運航管理者の資格を有して運航管理業務を行った経験 小型飛行機を操縦した経験

2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	80 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 一 学 年	前 期	① 空を飛ぶための力	4	1) 鳥と飛行機の翼の違いや共通点を理解する 2) 空を飛ぶときの4つの力を理解する	前期試験 1)～9)
			5	3) 標準大気を理解する 4) ベルヌーイの法則を理解する	
		② 空気の力学	6	5) 層流、乱流、レイノルズ数を理解する 6) 空中で方向を変える仕組みを理解する	
			7	7) エルロンリバーサル、トリムを理解する 8) フラップの仕組みを理解する	
			8	9) 舵面を動かす動翼を理解する	
	後 期	④ ジェット・エンジンの仕組み	10	1) ジェット・エンジンとは何かを理解する 2) エンジンのコントロールを理解する	進級試験 1)～8)
			11	3) エンジン・スタートを理解する 4) 燃料タンクを理解する	
			12	5) ジェット・エンジンの計器と役割を理解する	
		⑤ 飛行機の高さと速さ	1	6) 飛行機の高さ、速さを知る計器について理解する 7) 対地速度と対気速度の違いを理解する	
			2	8) 音速について理解する	
			3		

6 特記事項

--

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
発動機 I	講義		2	2	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	呉屋 宏
			40	40	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空機で使用する(ピストン・エンジン)の性能及び構造内容を理解する
使用教科書・副教材等	・ピストンエンジン ・航空工学入門
教員実務経験	航空機整備支援業務に携わった経験

2 追試験基準

前期試験	定期考査50点未満
後期試験	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	80 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 一 学 年	前 期	①航空エンジンの分類と発達	4	1)航空エンジンの分類を理解する	前期試験 ①～⑨
		②ピストン・エンジンの概念		2)ピストン・エンジンの概念を理解する	
		③エンジンの熱力学	5	1)エンジンの熱力学を理解する	
		④エンジンの出力及び効率		2)ピストン・エンジンの出力及び効率を理解する	
		⑤エンジンの構造	6	1)ピストン・エンジンの内部の構造を理解する	
		⑥燃料の燃焼	7	1)ガソリンの燃焼及びデトネーションについて理解する	
	後 期	⑦過給装置		2)過給機の目的及び型式を理解する。	進級試験 ⑩～⑮
		⑧燃料制御系統	8	1)燃料制御装置の内容を理解する	
		⑨点火系統		2)ピストン・エンジンの点火系統を理解する	
		⑩滑油と潤滑系統	10	1)ピストン・エンジンのと潤滑系統を理解する	
		⑪冷却系統		2)ピストン・エンジンの冷却系統を理解する	
		⑫航空燃料と燃料系統	11	1)航空燃料(ガソリン)の具備条件を理解する	
		⑬始動装置	12	1)ピストン・エンジンの始動条件を理解する	
		⑭運用と整備	1	1)ピストン・エンジンの運用と整備に関する事を理解する	
		⑮ピストン・エンジンのまとめ	2	1)整備士試験問題集活用してピストン・エンジンに関する問題を理解する	
			3		

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
機体構造 I	講義		3	3	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	呉屋 宏
			60	60	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空機の機体及び航空機のシステムの基礎的な構造を理解している
使用教科書・副教材等	・飛行機構造 ・航空機の基本技術 ・航空工学入門
教員実務経験	航空機整備支援業務に携わった経験

2 追試験基準

前期試験	定期考査50点未満
後期試験	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	80 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 一 学 年	前 期	①機体構造	4	1) 飛行機の主な構成部分を理解する	前期試験 ①～②
			5	1) 構造にかかる荷重と応力を理解する 2) 構造部分の基本的な構造材料を理解する	
			6	1) 構造の種類(胴体、翼)構造を理解する 2) 構造の種類(尾翼、操縦翼面等)理解する	
		②金属材料	7	1) 航空機に使用される鋼材を理解する 2) アルミ合金の性質等を理解する	
			8	1) マグネシウム合金、チタニウム合金の性質等を理解する	
	後 期	③非金属材料	10	1) 鋼材(炭素鋼、ステンレス鋼)の性質等を理解する 2) 鋼材(耐熱鋼)の性質等を理解する	進級試験 ③～⑥
			11	1) 非金属材料(プラスチック、ゴム)の性質等を理解する 2) 非金属材料(接着剤、塗料等)の性質を理解する	
		④複合材料	12	1) 航空機に使用される複合材料の性質を理解する	
		⑤着陸装置	1	1) 航空機の着陸装置の構造を理解する 2) ホイール、タイヤの構造を理解する	
			2	1) メイン・ギア・ステアリングの構造を理解する 2) 整備士試験問題集を活用してこれまで学習した範囲を理解する	
		⑥機体構造の1年次まとめ	3		

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
航空法規Ⅰ	講義		2	1	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	小倉 茂雄
			40	20	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空特殊無線技士資格取得 航空無線通信士試験科目のうち法規(電波法)を理解する
使用教科書・副教材等	①やさしく学ぶ 航空特殊無線技士試験 ②やさしく学ぶ 航空無線通信士試験
教員実務経験	航空無線通信士の資格を有して無線業務に従事した経験

2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	80 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 一 学 年	前 期	4	【航空特殊無線技士受験対策】 ① 法規(教科書主体) ② 電気通信術 ③ 過去問による受験対策 ④ 国家試験を受験する (試験日:6月9日)	前期試験 1)~8)
			1) 無線従事者国家試験について理解する 2) 電波法の概要について理解する	
			3) 電波法の内容について理解する(同上) 4) 電気通信術(送話、受話)を練習する	
		5	5) 電波法の内容について理解する(同上) 6) 電気通信術(送話、受話)を練習する	
	期	6	7) 電波法の内容について理解する(航空無線通信士受験対策)	
		7	8) 電波法の内容について理解する(同上)	
	後 期	8	【航空無線通信士 受験対策】 ⑤ 法規(教科書主体)	進級試験 1)~7)
		10	⑥ 法規(教科書主体) ⑦ 過去問による受験対策 ⑧ 国家試験を受験する (試験日:2月25日)	
		11	1) 電波法の内容について理解する(同上)	
		12	2) 電波法の内容について理解する(同上)	
		1	3) 電波法の内容について理解する 4) 過去問による受験対策	
		2	5) 電波法の内容について理解する 6) 過去問による受験対策	
	年 期	3	7) 過去問による受験対策	

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
エアラインオペレーションⅠ	講義		2	2	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	小倉 茂雄
			40	40	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	エアラインのオペレーション(運航)に係わる各種の仕事について理解する 航空気象の基礎を学び、気象が飛行に及ぼす影響について理解する
使用教科書・副教材等	エアラインオペレーション入門(改訂新版) 図解パイロットに必要な航空気象
教員実務経験	エアラインで運航管理者としての実務経験あり

2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	80 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 一 学 年	前 期	① グランドスタッフ	4	1) グランド・スタッフの仕事を理解する	前期試験 1)～6)
		② グランドハンドリング	5	2) 保安検査とCIQ、運送約款を理解する	
		③ 整備士	6	3) グランド・ハンドリングの仕事を理解する	
			7	4) 地上支援業務に使用する車両・器材を理解する 5) 整備体制、整備士の資格、整備作業について理解する	
			8	6) エンジンの構造を理解する	
	後 期	④ 運航管理者	10	1) 運航管理の組織体制、運航管理者の業務等を理解する 2) 管制業務、空域、飛行ルール等について理解する	進級試験 1)～10)
		⑤ IATAコード	11	3) 空港の3レターコード、航空会社の2レターコードを理解する 4) 大気の構造、国際標準大気、気団を理解する	
		⑥ 気象の基礎	12	5) 温度、気圧(高気圧、低気圧)を理解する 6) 雲、状態変化、霧、着氷、雷を理解する	
			1	7) 大気の状態(安定、不安定)を理解する 8) 風、コリオリの力を理解する	
		⑦ 天気図	2	9) 偏西風、乱気流、前線、台風を理解する 10) 天気図について、その概要を理解する	
			3		

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
基本技術Ⅰ	講義		1	1	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	呉屋 宏
			20	20	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空機整備作業に必要な基本的な技術を習得する
使用教科書・副教材等	・航空機の基本技術
教員実務経験	航空機整備支援業務に携わった経験

2 追試験基準

前期試験	定期考査50点未満
後期試験	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	80 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 一 期	前	①SI単位	4	1) SI単位の換算方法を理解する	前期試験 ①～⑤
		②リベット	5	1) リベットの型式、材料と特性を理解する	
		③ベンチ作業	6	1) 弓鋸、ヤスリの取り扱い、注意事項を理解する	
		④ベンチ作業	7	1) ドリル、卓上ボール盤の取り扱い、注意事項を理解する	
		⑤作図知識	8	1) 作図の知識を理解する	
学 年	後	⑥締付法	10	1) ボルト、ナットの種類、取扱方法を理解する 2) トルクレンチを使用してのトルク値の計算方法を理解する	進級試験 ⑥～⑧
			11	1) 安全線の材料と使用方法を理解する 2) コッター・ピンの材料と使用方法を理解する	
		⑦表面処理	12	1) 金属腐食の種類、発生原因について理解する 2) メッキについて理解する	
			1	1) 塗装について理解する 2) 鋼の表面硬化、表面処理について理解する	
		⑧一年次のまとめ	2	1) 1年次学習した項目の整備士試験問題集活用して理解する	
			3		

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
航空燃料	講義		2	2	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	呉屋 宏
			40	40	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空燃料、航空機への給油方法について理解するとともに、航空燃料を取り扱う際に必要な危険物取扱者乙種4類を取得する
使用教科書・副教材等	乙種第4類 危険物取扱者テキスト 乙4類危険物試験精選問題集
教員実務経験	危険物取扱者乙種4類を所持し、危険物取扱業務の経験あり

2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	80 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 一 期	前	①法令	4	1) 危険物とは何か 2) 指定数量と規制のしくみ	前期試験 ①
			5	3) 製造所等の区分 4) 危険物取扱者の種類 5) 免状の交付等 6) 保安講習 7) 保安体制	
			6	8) 各種申請・届出手続き 9) 許可の取り消し・使用停止命令 10) 保安距離と保有空地 11) 予防規定 12) 定期点検	
			7	13) 貯蔵・取扱いの基準 14) 運搬の基準 15) 移送の基準 16) 製造所等の基準	
			8	17) 標識・掲示板 18) 消火設備	
学 年	後	②基礎的な物理学・化学	10	1) 物質の状態変化 2) 比重・蒸気比重 3) 熱 4) 静電気 5) 物質の変化 6) 有機化合物 7) 酸・塩基・塩	進級試験 ②～③
			11	8) 酸化と還元 9) 金属 10) 燃焼 11) 自然発火 12) 消火	
	期	③危険物の性質	12	1) 類ごとの性質 2) 第4類の主な物品の性質	
		④危険物取扱者乙種4類試験対策	1	1) 危険物取扱者乙種4類試験対策	
			2	1) 危険物取扱者乙種4類試験対策	
			3		

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
航空無線 I	講義		2	3	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	比嘉 翼
			40	60	実務経験	無

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空特殊無線技士資格取得 航空無線通信士試験科目のうち無線工学及び英語の内容を理解する
使用教科書・副教材等	①やさしく学ぶ 航空特殊無線技士試験 ②やさしく学ぶ 航空無線通信士 ③航空無線通信士 英語 試験問題集
教員実務経験	

2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	30 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 一 学 年	前 期 【航空特殊無線技士 受験対策】 ① 無線工学	4	1) 無線従事者国家試験について理解する 2) 電波の性質 3) 電気回路 4) 半導体	① 前期試験
		5	1) 変調、送信機・受信機 2) レーダー、航法通信装置、空中線 3) 電波伝搬、電源、測定	
		6	1) 過去問対策 2) 国家試験を受験する	
		7	1) 電気物理 2) 電気回路	
		8	1) 半導体 2) 電子回路	
	後 期 【航空無線通信士 受験対策】 ② 無線工学 ⑥ 英語、英会話	10	1) 通信方式 2) 送信機 3) 受信機	⑤～⑥ 進級試験
		11	1) 電波航法と航法無線装置	
		12	1) 電源 2) 空中線及び給電線 3) 電波伝搬	
		1	1) 長文の英文和訳 2) 和文英訳	
		2	1) 過去問対策 2) 国家試験を受験する	
		3		

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
英語 I	講義		3	3	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	比嘉 翼
			60	60	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	実用英語技能検定準2級を取得するための英語力を身につける
使用教科書・副教材等	わからないをわかるにかえる 英検準2級 わからないをわかるにかえる 英検準2級 単語帳
教員実務経験	学習塾にて英語科目を担当

2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	50 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
	課題・提出物・小テスト	30 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 一 学 年	前 期	①準2級の文法	4	1) 3級過去問	①～②
			5	1) 現在完了形・現在完了進行形 2) 過去完了形・過去完了進行形・未来完了形	
			6	1) 助動詞 2) 注意すべき受け身の文 3) 不定詞 4) 動名詞 5) 分詞・分詞構文	
			7	1) 仮定法 2) 関係代名詞 3) 関係副詞 4) 比較	
	後 期	②準2級の重要単語・熟語	8	1) 重要名詞 2) 重要動詞 3) 重要熟語	③～⑤
			10	1) 会話表現	
			11	1) 長文の語句空所補充	
			12	1) 長文A(メール) 2) 長文B(説明文)	
年 期		③準2級の会話表現	10	1) 会話表現	③～⑤
		④長文読解対策	11	1) 長文の語句空所補充	
		⑤ライティング対策	12	1) 長文A(メール) 2) 長文B(説明文)	
学 年	後 期	⑥リスニング対策	1	1) 英作文	③～⑤
			2	1) リスニング	
年 期			3		③～⑤

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
TOEIC I	講義		3	3	学 年	一年次
		年単位時間	前期 60	後期 60	教 員	小倉 茂雄 実務経験 有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	TOEIC Bridge Listening & Reading TEST スコア64点以上 (TOEIC Listening & Reading TEST スコア350点相当) (オンラインでの受験を予定する。)
使用教科書・副教材等	①はじめてのTOEIC BRIDGE L&R テスト 全パート総合対策 ②はじめてのTOEIC BRIDGE L&R テスト 完全模試3回分 ③英会話ペラペラビジネス100
教員実務経験	海外事業部門で海外企業との技術導入に係る業務に携わった経験 航空機メーカー等との英語によるコミュニケーションを行った経験

2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	80 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 一 期	① 全パート総合対策 Listening TEST Reading TEST	4	1) Listening Part 1 画像選択問題の攻略 2) Listening Part 2 応答問題の攻略 3) 会話表現のマスター(Lesson 1)	前期試験 1)～11)
		5	4) Listenig Part 2 ～Part 3 会話問題の攻略 5) 会話表現のマスター(Lesson 2～3)	
	② 英会話の習得 First Contact Light Contact	6	6) Listening Part 3 ～Part 4 説明文問題の攻略 Reading Part 1 短文穴埋め問題の攻略 7) 会話表現のマスター(Lesson 4～5)	
		7	8) Reading Part 2 長文穴埋め問題の攻略 ～Part 3 読解問題の攻略 9) 会話表現のマスター(Lesson 6～13)	
	③ TOEIC Bridge L&R TEST 受験(前期試験:オンライン)	8	10) Reading Part 3 読解問題の攻略 11) 会話表現のマスター(Lesson 14～15)	
	④ 完全模試3回分	10	1) TEST 1 の実施と解答・解説 2) 会話表現のマスター(Lesson 16～25)	進級試験 1)～10)
		11	3) TEST 1、TEST 2の実施と解答・解説 4) 会話表現のマスター(Lesson 26～35)	
	⑤ 英会話の習得 Light Contact Regular Contact (2年次に続く)	12	5) TEST 2の実施と解答・解説 6) 会話表現のマスター(Lesson 36～45)	
		1	7) TEST 3の実施と解答・解説 8) 会話表現のマスター(Lesson 46～50)	
	⑥ TOEIC Bridge L&R TEST 受験(進級試験:オンライン)	2	9) TEST 3の実施と解答・解説 10) 会話表現のマスター(Lesson 51～54)	
		3		

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
基本作業Ⅰ	実習		3	3	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	呉屋 宏 / 幸地 司
			60	60	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空機の整備作業の基礎となる基本作業の技能を習得する
使用教科書・副教材等	・航空機の基本技術
教員実務経験	航空機整備支援業務に携わった経験

2 追試験基準

前期試験	課題・小テスト 50点未満
後期試験	課題・小テスト 50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	各章の課題・小テスト成績	80 %	仮評価		%
	実習態度・安全対策	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 一 期	前	①ベーシックマナー	4	1) 整備の心構えを理解する	前期試験 ①～⑥
		②航空機整備 基本工具		2) 基本工具の名称及び用途を理解する	
		③機械計測	5	1) ノギスの使用方法を理解する	
				2) マイクロ・メーターの使用方法を理解する	
		④リベット作業	6	1) リベッティング作業方法を理解する	
		⑤ベンチ作業 1	7	1) 弓鋸の使用方法を理解する	
学 年	後	⑥ベンチ作業 2	8	2) やすりの使用方法を理解する	進級試験 ⑦～⑨
		⑦ベンチ作業 3	10	1) タップ、ダイス作業方法を理解する	
			11	2) 課題の文鎮制作	
		⑧締付法		1) 課題の文鎮制作	
			12	1) ボルト、ナットの用途、使用方法を理解する	
		⑨表面処理		2) トルク・レンチの取扱いを理解する	
			1	1) 安全線の掛け方の作業方法を理解する	
				2) コッター・ピンの取付の作業方法を理解する	
年	期		2	1) 安全線の掛け方の作業方法を理解する	
				2) コッター・ピンの取付の作業方法を理解する	
			3	1) 腐食除去作業方法を理解する	
				2) 塗装作業の手順を理解する	

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
コンピュータ概論	演習		2	2	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	加藤 勇
			40	40	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	IT化社会といわれる現代のビジネス社会や日常生活において、覚えておく と便利なWord・Excelの基本操作を理解します。文書作成から基礎関数など を習得し、様々なビジネスシーンでの活用を目標とします。
使用教科書・副教材等	Word2019 クイックマスター基礎編／Excel2019 クイックマスター基礎編 日本語ワープロ検定文書・速度/情報処理技能検定試験表計算 各模擬問題
教員実務経験	

2 追試験基準

前期試験	評価の50%未満は追加課題
後期試験	評価の50%未満は追加課題

3 補習授業基準

前期	科目出席率80%未満
後期	科目出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	試験評価	70 %	仮評価		%
	出席率	15 %			%
	学習への取り組み	15 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 一 期	① Excel基本操作	4	1) Excel画面構成を理解し、基本操作を覚える基本操作 2) データの編集方法を理解する	情報処理 模擬問題
	② Excel表・グラフ作成	5	1) 表の編集 2) ブックの印刷(PDF保存・編集) 3) グラフと図形の作成	
	③ Excel関数・データベース	6	1) ブックの利用と管理 2) 関数(基本)を覚える	
	④ Excel実技演習	7	1) 関数を覚える 2) 情報処理技能検定3級模擬問題	
	⑤ 情報処理技能検定問題 (各級)	8	1) 関数を覚える 2) 情報処理技能検定準2級模擬問題 3) データベース機能の活用方法を習得	
学 年 後 期	⑥ Word基本操作	10	1) ホームポジションを理解し、タッチタイピングを实践 2) 文字の入力・編集および文章の編集を理解する	日本語 ワープロ模 擬問題
	⑦ Word文書作成	11	1) 文書の作成 2) 表を使った文書の作成 3) 文書の印刷(PDF保存・編集)	
	⑧ Word実技演習	12	1) 図形や画像を使った文書の作成 2) 総合学習問題	
	⑨ 日本語ワープロ模擬問題	1	1) 日本語ワープロ検定模擬問題4級～3級	
		2	1) 日本語ワープロ検定模擬問題準2級から1級	
		3	1) 日本語ワープロ検定(文書作成)試験	

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
就職実務 I	講義		2	2	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	加藤 勇
			40	40	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	【前期】就活以前の事前学習⇒基礎学力試験対策 【後期】企業の採用活動、就職活動を理解させると共に、必要な企業の情報収集方法等から応募関係書類の準備作成
使用教科書・副教材等	【前期】これだけは知っておきたい!面接対策&ビジネスマナー (ウイネット) 【前期】就職試験サポートドリル(実務教育出版)
教員実務経験	

2 追試験基準

前期試験	成績評価の50%未満
後期試験	成績評価の50%未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	試験評価	70 %	仮評価		%
	出席率	15 %			%
	学習への取り組み	15 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 一 学 年	前 期	自己紹介(学生情報収集)	4	・学生との距離を詰め、学習や就活への取り組み方などを周知。 個人の能動的意欲を促進させる。	前期試験
		【面接対策&ビジネスマナー】 面接の重要性と 自己PRの作成 履歴書作成 企業説明会 【就職試験サポートドリル】 筆記試験対策 (一般常識を含む)	5	『面接対策&ビジネスマナー』を使用	
			6	・社会人としての基本的なビジネスマナーについて学習する。 ・面接の大切さを理解させる。 ・実践を想定した面接練習を行う。	
			7	・自己分析の重要性を理解させる。 ・実践を想定した自己PRを作り上げる。	
			8	『就職試験サポートドリル』を使用 ・随時小テストを実施し、学生の習熟具合を確認する。	
	後 期	【就職活動・企業研究】 企業説明会 インターンシップ 採用試験受験 (採用試験対策)	10	企業説明会 ・授業枠を使用して企業を誘致、学内にて説明会を開催。 ・採用実績のある企業が主体となり応募対象を絞り込む。 ・業界関係職種なども含めた幅広い情報をレポートに納める。 インターンシップ ・実際の職場環境を体感し、企業研究を更に深める。 就職試験対策 ・応募企業の選定後、採用試験の受験を斡旋。 ・並行して採用試験に関する受験対策授業を実施。 (面接所作、一般常識などの筆記対策、履歴書作成など)	レポート 確認テスト
			11		
			12		
			1		
			2		
			3		

6 特記事項

『面接対策&ビジネスマナー』を使用し、社会人の基本的マナー及び 『就職試験サポートドリル』を使用し、基礎学力の向上、一般教養を前期にて併用学習する。 成績後期評価は企業説明会レポート課題評価とする。

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
就職対策Ⅰ	講義		2	2	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	比嘉 翼
			40	40	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	就職筆記試験に必要な知識や計算力を身につける。
使用教科書・副教材等	SPI3 ひとつひとつわかりやすく
教員実務経験	専門学校にて教員として就職筆記試験対策に関する指導経験あり

2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	30 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 一 学 年	①非言語問題	4	1) 四則の混じった計算 2) 公倍数と公約数 3) 分数の計算 4) 小数と分数の関係 5) 割合の表し方 6) 比の性質	①
		5	1) 相当算 2) つるかめ算 3) 年齢算	
		6	1) 損益計算 2) 速さ 3) 平均速度 4) 旅人算 5) 通貨算	
		7	1) 流水算 2) 濃さ 3) 仕事算	
		8	1) 場合の数	
	②言語問題	10	1) 確率 2) 集合	①～②
		11	1) 推論	
		12	1) 推論	
		1	1) 表やグラフの読み取り 2) n進法 3) 数列	
		2	1) 語句の意味 2) 熟語の成り立ち 3) 二語関係 4) 長文読解	
		3		

6 特記事項

--

科 目 名	授業方法	年単位時間	前期・後期	学 科	航空ビジネス科
企業研修	実習			学 年	一年次
			30	教員	比嘉 翼

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	実践的かつ専門的な職業教育の専攻分野の職業に係る勤労観及び継続的な学習意欲等の醸成、専攻分野の実務に必要となる知識、技術及び技能の修得を目的とする
---------	---

2 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	研修成果(報告書)	50 %
	研修活動への取り組み	50 %
		%
		%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考查範囲
第 一 学 年	①各専攻分野において学校及び企業との協議の上で決定する。	4	企業研修において研修学生が専攻分野に関する職業に必要な実践的かつ専門的な能力を修得するための職業教育及び指導等を行う。	①
		5		
		6		
		7		
		8		
		10		
		11		
		12		
		1		
		2		
		3		

6 特記事項

--